

# 高校日本史プリント（過去問類似）

## 日本史B（旧課程の過去問） No.3

名前

得点

/10

**問1** 江戸時代の酒造業において、摂津国の伊丹などで生産され、江戸へ送られて「下り酒」として珍重された、麴米と掛け米の双方に精白米を使用する高度な技術によって造られた澄み切った高級な清酒を何と呼ぶか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 泡盛                                      2. 諸白                                      3. 焼酎                                      4. 清酒

**問2** 律令制下において、都に送られて中央の役所で雑務に従事した仕丁は、当時の身分制度において、五色の賤などの賤民ではなく、どのような身分の人々から徴発されたか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 陵戸                                      2. 良民                                      3. 官戸                                      4. 賤民

**問3** 明治初期の自由民権運動において、自由党や立憲改進黨などの民権派に対抗するため、福地源一郎らが結成した、天皇主権の憲法制定を支持し政府を擁護する立場をとった保守的な政党は何か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 立憲政友会                                      2. 立憲改進黨                                      3. 立憲自由党                                      4. 立憲帝政党

**問4** 文献史料が残されていない先史時代の日本列島における人々の生活や社会の様子を明らかにするためには、地中から発掘された土器や石器、住居跡などの物質的資料（遺物や遺構）の分析が不可欠である。このような、文字記録に頼らずに具体的なモノの分析を通じて過去の人類の歴史や文化を研究する学問分野を何というか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 人類学                                      2. 文献学                                      3. 考古学                                      4. 民俗学

**問5** 終戦直後の占領期にみられた一時的な農村への人口分散とは対照的に、1950年代後半から1970年代初頭にかけて、地方の農村から大都市圏への急速な人口移動が起こり、過疎化や過密化が深刻な社会問題となった。この人口移動の背景となった、日本経済の飛躍的な拡大期を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 昭和農業恐慌                                      2. 傾斜生産方式                                      3. 高度経済成長                                      4. 昭和金融恐慌

**問6** 室町幕府の地方支配体制が揺らぐなか、戦国大名の中には、南北朝時代以来の伝統的な支配権を背景に、そのまま領国を掌握して戦国大名へと脱皮・成長を遂げた家系が存在した。このような出自を持ち、駿河国を本拠地として領国支配を広げた代表的な一族を何というか。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 大友氏                                      2. 今川氏                                      3. 島津氏                                      4. 武田氏

**問7** 明治政府は、欧米諸国に対抗して国家の近代化を急ぐため、産業の育成と資本主義の発展を目指す政策を推進した。その一環として、西洋の先進的な技術や機械、制度を国内に導入・移植するために、政府が直接経営し、民間企業の模範とさせた施設を総称して何というか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 横須賀造船所                                      2. 大阪砲兵工廠                                      3. 東京砲兵工廠                                      4. 官営模範工場

**問8** 6世紀半ばの欽明天皇の時代頃に朝廷でまとめられたとされる、大王の系譜を記したものと、神話や伝承を記したものの総称で、のちに天武天皇の命によって編纂が始まり、8世紀に完成した『古事記』や『日本書紀』の原史料となったとされる史料を何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 帝紀・旧辞                                      2. 古事記・風土記                                      3. 天皇記・国記                                      4. 古事記・日本書紀

**問9** 室町幕府の3代将軍足利義満は、将軍権力を脅かす有力守護大名の抑圧を進めた。1399年、瀬戸内海の海上交通を掌握し、朝鮮や明との独自交易によって富を蓄え、周防など6カ国の守護を兼ねていたが、幕府に対する反乱を起こして堺で敗死した守護大名は誰か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 細川頼之                                      2. 赤松満祐                                      3. 大内義弘                                      4. 山名氏清

**問10** 7世紀後半の地方支配の実態を示す史料として、藤原京跡などから出土した木簡が挙げられる。『日本書紀』の改新の詔には、地方行政組織として「国・郡・里」を整備したと記されているが、これらの木簡の分析により、701年の大宝令が施行されるまでは、「郡」ではなく別の漢字で表される行政単位が置かれていたことが明らかになった。この大宝令以前に用いられていた地方行政単位を何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 国                                      2. 郡                                      3. 里                                      4. 評

## 答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 2 諸白	江戸時代中期以降、摂津国の伊丹や池田、のちには灘などで、麴米と掛け米の両方に精白米を用いる製法による清酒造りが発達した。これにより、それまでの濁り酒に代わって、澄み切った高品質な清酒が大量に生産され、江戸へ送られて人気を博した。
問2	答え 2 良民	律令制下の身分制度は、大きく良民と賤民（五色の賤）に分けられていた。都で雑務に従事する仕丁は、課税対象となる公民、すなわち良民の戸から一定の割合で徴発された。
問3	答え 4 立憲帝政党	自由民権運動の激化に伴い、民権派の自由党や立憲改進黨が結成されると、これらに対抗して政府を支持する勢力も組織化された。1882年、東京日日新聞の福地源一郎らは、天皇主権の憲法制定を主張し、政府の政策を擁護する立場からこの政党を結成した。しかし、政府自体の超然主義的な姿勢や民権派の勢いに押され、同党は翌年に解散へと追い込まれた。
問4	答え 3 考古学	文字記録が存在しない、あるいは極めて限られている先史時代などの歴史を解明するためには、地中から発掘された土器や石器などの遺物、あるいは住居跡や貝塚などの遺構といった物質的資料を分析することが不可欠である。このような物質的資料をもとに過去の人類の歴史や文化を研究する学問を考古学と呼ぶ。これに対し、文字による文献史料を主たる研究対象とするのが文献史学であり、伝承や民俗行事などを対象とするのが民俗学である。
問5	答え 3 高度経済成長	終戦直後の占領期には、都市の食糧難などから一時的に農村へ人口が流入していましたが、1950年代半ばから始まる高度経済成長期に入ると、工業化の進展に伴い地方の農村から大都市圏へ若年労働者を中心に人口が大量に移動しました。これにより、農村部での過疎化と都市部での過密化が深刻な社会問題となりました。
問6	答え 2 今川氏	戦国大名には様々な出自の者が存在する。駿河の守護であった家系からそのまま戦国大名へと成長したのが今川氏であり、同様の例として甲斐の武田氏が挙げられる。これに対し、北条早雲（伊勢宗瑞）のように素浪人から台頭した者や、毛利元就のように在地の領主（国人）から成長した者もあり、出自による分類は戦国大名の性格を理解する上で重要である。
問7	答え 4 官営模範工場	明治政府は、資本主義の育成を目指す殖産興業政策のもと、富岡製糸場や新町屑糸紡績所などの施設を各地に設立した。これらは政府が直接運営し、西洋の近代的な技術や労働管理制度を国内に導入・普及させるための模範としての役割を果たした。のちに、政府の財政難や民間産業の成長に伴い、1880年の概則制定を経て、これらの多くは民間に払い下げられることとなった。
問8	答え 1 帝紀・旧辞	6世紀半ばの欽明天皇期頃に、朝廷において大王（天皇）の系譜を記した「帝紀」と、神話や伝承を記した「旧辞」がまとめられたとされる。これらは、天武天皇の命によって舎人親王や太安万侶らが編纂に関わり、奈良時代に完成した『古事記』や『日本書紀』の原史料となった。蘇我馬子が聖徳太子とともに編纂したとされる『天皇記』や『国記』は、乙巳の変の際に多くが焼失したと伝えられており、これらとは区別して理解する必要がある。
問9	答え 3 大内義弘	足利義満の守護抑圧策の最大の標的となったのが、周防・長門・豊前・筑前・和泉・紀伊の6カ国の守護を兼ね、朝鮮や明との独自交易で巨万の富を築いていた大内義弘であった。義弘は1399年に堺で挙兵した（応永の乱）が、義満の派遣した幕府軍に敗れて討ち死にし、大内氏の勢力は一時的に大きく削減された。
問10	答え 4 評	『日本書紀』には大化の改新の際に「郡」が設置されたと記述されているが、これは後世の編纂時に大宝律令制定後の制度に合わせて書き換えられたものである。藤原京跡などから出土した木簡の分析により、大宝令が施行されるまでは「評」という文字が用いられており、大宝律令の制定によって初めて「郡」に改められたことが明らかになった。このように、文献史料と考古学史料（木簡）の比較によって歴史の実態が解明された好例である。